



神奈川労連シンポジウム

横須賀からの報告

2022年2月26日

横須賀火力発電所建設を考える会

鈴木 陸郎

- 横須賀石炭火力計画の概要
- 石炭火力からの撤退は急務
- 横須賀に、なぜ石炭火力か？
- 「考える会」の活動について

石炭火力発電所建設計画の概要

(仮称)横須賀火力発電所新1・2号機

事業者	： (株) J E R A
出資者	： (株) 東京電力、 (株) 中部電力
住所	： 神奈川県横須賀市久里浜9-2-1
設備容量	： 130万kw (65万kw × 2 基)
燃料	： 石炭 (360万トン／年)
運転開始予定	： 1号2023年、 2号2024年

最新鋭技術、高効率だと大宣伝

- 超々臨界(USC)600°C、25MPa
水の臨界点374.2°C、22.1MPa
- 経産省は、石炭火力の発電効率40%以上をBATの基準として示した。
- 横須賀の石炭火力は43.5%。

石炭火力からの撤退は急務

- 石炭は大気汚染物質を大量に発生し、健康被害が懸念される。
- 石炭は燃料種の中でもっとも多くの二酸化炭素を発生し、地球温暖化を促進、気象災害をいっそう激化させる。
- リプレースを口実に不法にアセスを簡略化している。アセス制度の破壊につながる。
- 横須賀への新設は日本の政策の象徴的存在。

横須賀に、なぜ石炭火力か？

- 事業者は、リプレイスであること、国の政策に合致していることを強調
 - 国のエネルギー基本計画
 - 省エネ法のベンチマーク指標の達成
- 企業の事業性を優先した計画
 - 用地、港湾、送電線など旧施設が使用できる
 - 横須賀の地域経済の衰退も影響した

リプレイス前の発電所

2017年4月撮影



2019年5月建設工事着手直後



横須賀の地域経済の衰退

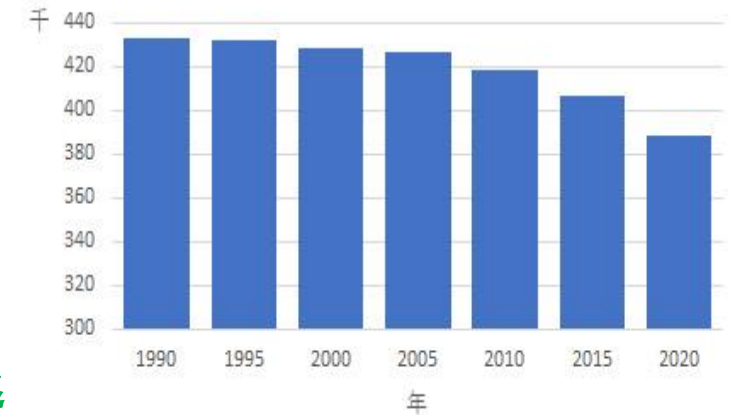
- ・ **首都圏でありながら人口減少がすすんでいる地域**

転出超過日本一（2013年）。約1700人転出超過

1995年がピークで43.3万人

⇒ 2020年には38.8万人（国調）
25年で約5万人減少

横須賀市の人口減少



- ・ **産業構造の変化、企業移転などで製造業が衰退**

1990年従業者数 約2万9300人

製造出荷額 15,500億円

⇒ 2018年従業者数 約1万3400人

製造出荷額 7,446億円（2014年は、4,703億円）

「考える会」の活動について

- アセス審査会の傍聴、国・県・事業者への申し入れ
- 方法書・準備書の事業者説明会への参加、参加の呼びかけ、意見書提出
- 学習会の開催、他団体との交流（国際気候アクション）
- 街頭宣伝、署名活動、住民アンケート
- 裁判の支援・傍聴、横須賀市環境審査会の傍聴、市への申し入れ、市議会への請願・陳情
- 毎月初めの日に門前アクション

準備書説明会に 4 1 0 名が参加

方法書の説明会（2会場合わせて、77名参加）

準備書の説明会（同上、410名参加）時間延長1時間30分

準備書への意見書 3 8 6 件

準備書への意見書提出（109通、386件）

公聴会で 1 8 人が公述

県条例にもとづく公聴会の開催を要求し、全員が反対意見



毎月初日の門前アクション

2021年4月1日発電所正門前



